

「やまがた道の駅」緊急整備支援事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	県土整備部				
短期アクションプラン	テーマ	テーマ5 世界に誇る山形の魅力を発信し国内外の旺盛な活力を引き込む「観光立県山形」の確立							
	施策	施策1 全ての人が快適に旅行できる環境の整備							
	目的	外国人や高齢者などの全ての旅行者が「旅の喜び」を実感できるよう、多様な旅行者のニーズをとらえた受入態勢の整備や交通環境の利便性向上を図る。							
	目標指標(R2)	-							
	策定時の実績	-	現状	-	主要事業 観光流動を促す交通の利便性向上				
事業名	「やまがた道の駅」緊急整備支援事業費		担当課・担当	道路整備課 道路企画担当					
事業開始年度	平成28年度		事業終了(予定)年度	令和2年度					
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	「やまがた道の駅ビジョン2020」に基づき、設置者(市町村)が行う施設整備に支援を行い、「道の駅」の魅力向上を図る。								
事業概要 (5行程度で簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光案内所・観光案内スペースの新設・拡充に必要な費用の一部補助。 ・通行止め、冬季の路面凍結等の道路情報を提供する情報機器の整備の一部補助。 ・車中泊専用エリアの整備に必要な費用の一部補助。 ・トイレの洋式化及び多機能化に必要な費用の一部補助（既設駅のみ） ・防災設備の整備に必要な費用の一部補助。 								
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：設置者(市町村)が行う施設整備に対する補助であるため								
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
	「やまがた道の駅」緊急整備支援事業費補助	20,000	20,000						
	観光案内所誘導看板製作	210	210						
	計	20,210	20,210	0	0	0			
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金								
	繰入金								
	その他特定財源								
	一般財源	20,210	20,210						
	計	20,210	20,210	0	0	0			
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	「やまがた道の駅」緊急整備支援事業費補助件数	活動実績			3	2			
		当初見込み	箇所		4	4	4	3	-
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	「道の駅」の観光客数	成果実績		7,202	※ 7,649				
		目標値	千人		7,271	8,316	8,537	8,763	-
		達成度	%		99.1%	92.0%			
関連事業	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; color: red;"> ※平成30年度第3四半期までの実績 平成29年度第4四半期の観光客数943千人を加えると8,592千人となり、目標を達成する見込み。(達成度103.3%) </div>								

事業目標の考え方(事業目標設定時)

「道の駅」を観光拠点として位置付け、高速道等の利用者をいったんIC近傍の「道の駅」へ誘導し、必要な情報を発信することで、各圏域内のすみずみを周遊してもらい、県全体の観光振興及び地域活性化につなげていくことが期待されている。

そのため、「道の駅」そのものの魅力をアップすることが必要であることから、県では市町村の意見を聞きながら、「山形らしい道の駅」を整備していくための考え方を「山形道の駅ビジョン2020」として示した上で、「道の駅」の設置者である市町村の主体的な取組みを促進するため、「やまがた道の駅」緊急整備支援事業により支援を行っている。

本事業目標は、「おもてなし山形県観光計画」の目標と、「やまがた道の駅」緊急整備支援事業等による県内道の駅の魅力向上による誘客力の向上を勘案して設定。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	「道の駅」については、休憩施設はもとより観光拠点にも成り得ることから、トイレ改修や観光案内所等の施設整備を行うことは、「道の駅」の魅力向上に繋がる。 本事業の施設整備により、観光客数の増加に繋がっており、目標値を上回る見込みである。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	C	本事業は、「道の駅」の設置者である市町村の主体的な取組みを促進するため、支援を行っている。 補助対象箇所については、「山形道の駅ビジョン2020」を示した上で、「山形らしい道の駅」の整備箇所に支援を行っている。 平成30年度における支援事業としては、当初4箇所の支援を見込んでいたが、市町村が策定する道の駅リニューアル計画に日数を要し、2箇所の実績となっている。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
	類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	
の役割 妥当 分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	
今後 改善 の 点 課 等 題	平成31年度より一駅あたりの補助金上限額の見直しと「自転車関連施設」や「子育て支援施設」等の補助金対象事業の拡充を行い、更なる道の駅の魅力向上に取り組んでいく。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない